

国語 六十一 (書き)	第六学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにもきをつけましよう。

① □の□をで。
そんけい きもち ことば あらわす

② □なを。
じごちゆうしんてき かんがえ あらためる

③ □の□をても。
おおく せいぞろ みつけ かんげき

ひとしおだ。

④ あまりの□にを。
たのしさ われ わすれる

⑤ □を□をにする。
ひと うやまう ところ たいせつ

国語 六―二 (書き)	第六学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① ぎょうちゅう うち あける
を

② こんなん まけ しごと なし
に ず、 を と

げる。

③ よてい こまる
より の が て

④ てんのう こうごう りようへいか かいがい
ほうもん えんき の へのご

が になる。

⑤ きぼう むね
を にがんばろう。

国語 六―三 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □の□の□が□に
えらばれる。

② □の□をていねいに□。
きぬいとまく

③ □の□の□を□。
きんむさぎかいしゃえんかくしらべる

④ □た□を□する。
やぶれえまきものしゅうふく

⑤ □に□□に□。
かわぞいあるまちこうばつとめる

⑥ □の□を□□。
ものがたりじょうかんよみおえる

国語 六―四 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日 月 日
-------------------	--------------	----	---	---	---	---------------

次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
送りがなにも気をつけましよう。

① □ せん たく □ もの を □ ほし てから □ つくえ の □ うえ を
せいり する。

② □ げきじよう の □ くらぐち を □ けいび する。

③ □ おんし のはげましの □ ことば に □ かんげき する。

④ □ ふる やまぞい の □ ちいき に □ はげしい あめ が
○

⑤ □ かんまん の □ さ が □ おおきい ○

こく語
六―五
(書き)

第六学年の漢字(書き)

名前

年 組 番

次のぶんの□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにもきをつけましょう。

① □いこく への □たび は □きちよう な □けいけん である。

② □こと なる □ぶんか を □りかい するのは □かんたん

ではない。

③ □ほね が □おれ 、 □いたみ で □こきゆう もできない。

④ □せんせい から □しよくいんしつ に □よば れる。

⑤ □てっこつづくり の □たてもの 。

⑥ □きよらか な □くうき を □むね いっぱいに

□すう 。

こく語
六―六
(書き)

第六学年の漢字（書き）

名前

年 組 番

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① すなば □ あな
で □ をほる。

② □ ないかくそうりだいじん
の □ しじ
に □ したがう
。

③ さぎん □ みつける
を □ 。

④ □ にほんこくけんぽう
に □ かん
する □ いっさつ
の □ ほん

を □ よむ
。

⑤ □ しゆくん
と □ けらい
が □ しゆじゆうかんけい
を □ むすぶ
。

国語 六―七 (書き)	第六がく年の漢字(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① おやこうこう
をする。

② きびしい
げんじつ
をしる。

③ ていしゅつきげん
を
げんしゅ
する。

④ こうよう
が
うつくしい
きせつ
になる。

⑤ だいがくせい
になった
あね
が
くちべに
を
つかう。

国語 六十八 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □の□があちこちにあって

□だ。

② □のあら□を□する。

③ □に□が□。

④ □あぶない□ばしょに□づいてはいけない。

⑤ □は□で□しまった
□だ。

国語 六―九 (書き)	第六学年の漢じ(書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢じを書きましよう。
送りがなにも氣をつけましよう。

① じ だつ じ ちゅうい する。

② ことば つかいかた をやまる。

③ ぎもん かいけつ する。

④ ともだち うたがう ことはしない。

⑤ ちようしよく かんたん します。

こく語
六十一
(書き)

第六学ねんの漢字(書き)

名前

ねん

組 番

次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

①

きせつはずれ

□

の □

を

□

で

うる

□

。

②

こっかい

□

の

かいき

□

を

のぼす

□

。

③

ボールが

あたり

□

、

まど

□

ガラスが

われる

□

。

④

お

としま

□

を

りょうしん

□

に

あずける

□

。

⑤

けんりよく

□

を

こうし

□

する。

⑥

よきんつうちよう

□

を

だいじ

□

に

かんり

□

する。

国語 六十一 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名まえ	年	組	番	取り組んだ日 月	日
-------------------	--------------	-----	---	---	---	-------------	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① どんよりとしたの、にもが
ふりだし そうな
はいいろ いま あめ

② ではが
よほう こうすいかくりつ たかい

③ なを
だいきぼ こうじ けいかく

④ を
みず きょうぎゅう
するシステムを
せいび

⑤ にを
ぼぜん はな
そなえる

⑥ たちがバスから
こども おりる

国語 六十二 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
送りがなにもきをつけましよう。

① ちち は てっこうぎょう を いとなむ かいしや に

つとめ ている。

② おおごえ で ともだち を よぶ。

③ かぎら れた しげん を たいせつ に つかう。

④ じぶん の げんき の みなもと は あさ ご はん だ。

⑤ かいけつさく を かんがえる ひつよう がある。

国語 六十三 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだひ 月 にち					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □_{かいぎ}を□_{かいし}する□_{じこく}になった。

② トラックから□_{にもつ}を□_{おろす}。

③ あの□_ひのできごとを□_{はたら}に□_{かかわ}。

④ □_{いまつ}ている□_{ひとびと}を□_{きゆうぎ}する。

⑤ にぎやかな□_{しよくじ}が□_{すむ}。

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

①

しょうがいこく

から

かんこうきやく

が

おんせんち

に

やってくる。

②

こうてい

の

なつ

みかんがすっかり

じゆく

した。

③

つめたい

みず

がわき

でる

いずみ

。

④

ほうあん

が

しゅうぎいん

で

かけつ

された。

⑤

この
おりもの

は

あらう

と

ちぢむ

。

⑥

たんしゆく

する。

こうりつか

を

すすめ

、

ちぎようじかん

を

国語 六―十五 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名まえ	年	組	番	取り組んだ日 月 日
--------------------	--------------	-----	---	---	---	------------------

つぎ ぶん
次の文の□に当てはまる漢字かんじを書きましか
送りがなにも気をつけましょう。

① ユネスコの□が□を□。
しんぜんたいし
すがた
あらわす

② □では、□のまゆを□かくする。
ようさんぎよう
かいこ
しゅう

③ □として□を□たのち、
せんしゆ
せいこう
おさめ
かんとくに□した。
しゅうにん

④ □な□が□される。
まえむき
しせい
ひようか

⑤ □□を□がける。
よい
おこない
こころ

国語 六十一 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年 組 番
-------------------	--------------	----	-------

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □の□を□。
まど すんぽう はかる

② □に□□がけが□から
すいちよく きり たつ しゃそう

③ □なとう□が□て□が
りつぱ じき われ みず

□。
たれる

④ □を□した。
きずぐち おうきゆうしうち

⑤ □の□ミスを□。
きかい そうご ふせぐ

⑥ □にあったが、□にも□で
すん じこ さいわい けいしやう

□だ。
すん

国語 六十七 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① あんぜんそうち ないぞう が された きかい を

かいはつ する。

② もう わすれもの はしないと せんげん した。

③ ゆうじん の せいじつ な たいど に こころ が あらわ

れた。

④ せん たく き が こしょう した。

⑤ ゆうじん の いけん を しりぞける 。

⑥ ふくつう で そうたい する。

こく語 六十八 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
--------------------	--------------	----	---	---	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① やちん
を おさめる
ため おおや
の いえ
を

たずねる
。

② めの
をどの いろ
で そめる
か けんとう
する。

③ もの
の けいとうせい
について かんがえる
。

④ どうめいこく
を ほうもん
する。

⑤ こくみん
には のうぜい
の きむ
がある。

国語 六十九 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次のぶんの□に当てはまる漢字を書きましよう。送りがなにも気をつけましよう。

① あたらしい ぶんか をつくる のは わかもの
た

ちだ。

② どくそうてき えんそう
な をする。

③ ながい かいだん ふたん かん
を に じる。

④ たいかい さんか みとめ
への が られる。

⑤ はいゆう えんぎ じょうず
あの は が だ。

こく語 六―二十 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
---------------------	--------------	----	---	---	---

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましよう。
おく ぎ
送りがなにも氣をつけましよう。

① あね
□ の □
こうぶつ
は □
たまごりようり
だ。

② せかい
□ には □
おおく
の □
しゅうきよう
がある。

③ さくばん
□ の □
こと
は □
ひみつ
にしておこう。

④ こっかい
□ で □
やとう
の □
ぎいん
が □
そうりだいじん

に
しつもん
□
する。

⑤ とうきようと
□ がある
ちようしゃ
の □
ばしよ
を

たしかめる
□。

⑥ こころは
しゅうち
□
です。

国語 六―二十一 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだひ 月 にち					

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにも氣をつけましよう。

①
じゅうらい
のやり
かた
を
かいぜん
することは

むずかしい
。

②
こんなん
な
もんだい
だが
かいけつ
に
むけ
て
どりよく
しよう。

③
ちそう
に
きようみ
がある。

④
たんじようび
に
はな
が
とどく
ように
てはい

した。

⑤
はいく
の
ざっし
を
かう
。

国語 六十二 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名まえ	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
送りがなにも気をつけましよう。

① 人づかひのうちはようじききゆうそく
はったつする。

② おきないこども
おこなう。 たちをまえにしてろうどくを

③ ほうりつ
の べんきよう
をする。

④ まいあざ
、 うし
の ちち
をしぼる。

⑤ コーヒーにぎゆうにゆう
と さとう
を いれる
。

国語 六―二十三 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだひ 月 にち					

つぎ ぶん
次の文の □ に 当てはまる 漢字 を 書きましよう。
おく
送りが なのにも 気を つけましよう。

①

ともだち	と	せなか	を	あわせ	て	せいぐらべ
------	---	-----	---	-----	---	-------

をする。

②

なみき	すぎ	の	はいご	に	さんちよう	が	みえる
-----	----	---	-----	---	-------	---	-----

③

やま	の	いただき	から	ひので	を	おがむ
----	---	------	----	-----	---	-----

④

すいりしようせつ	の	ほん	を	いただく
----------	---	----	---	------

⑤

じたく	は	ゆうびんきよく	の	ならび	に	ある
-----	---	---------	---	-----	---	----

⑥

ちち	の	ひやかじてん	を	はいしやく	する。
----	---	--------	---	-------	-----

国語 六―二十四 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	前 年 組 番	取り組んだ日 月 日
---------------------	--------------	------------------	------------------

つぎ ぶん
次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにもきをつけましよう。

① 江戸 ばくふ の しょうだい しょうぐん
は徳川家康だ。

② べんろんたいかい が まく を あける。

③ しょうめい を あつめる ため、 ふんき した。

④ ゆうき を ふるう 。

⑤ じゃくてん を おぎなう ため、 せんしゅ を ほきよう

する。

⑥ こうえん の じゅもく をながめる。

国語 六―二十五 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番	取り組んだ日 月	日
---------------------	--------------	----	---	---	---	-------------	---

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① ごみ□に、ごみを□。

② □を□して□する。

③ □は□□□□□を□

□だ。

④ □を□している。

⑤ かれの□は□□□□□になること

だ。

⑥ □で□□□□□がらを□。

国語 六―二十六 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① あさばん、かわぞいの□を□。

② へいわの□さを□した。

③ やまの□で□を□。

④ いちまいの□が、せんぞの□た

かほう
だ。

⑤ ひこうきの□の□が□の□だ。

国語 六―二十七 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだひ 月 にち					

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにも気をつけましよう。

① ひはん
のべる
を
しょうち
で
こんご
の
ほうしん
を

② ちゅうしゃ
の
はり
を
みる
のが
にがて
だ。

③ ひ
が
くれ
たので
しょうめい
をつける。

④ あに
は
さいきん
、
ひとりぐらし
を
はじめ
た。

⑤ まと
に
むけ
て
や
を
いる
。

⑥ ていあん
に
たい
して
ひていてき
な
いけん
が

でる
。

国語 六―二十八 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにも氣をつけましよう。

① たて よこ
□ と □ の □
ながさ
から
めんせき
を

もとめる
□。

② さつか
その □ の □
ちよさく
を
たすう
ほぞん
して
いる。

③ がか こてん
□ の □ に □ の □
おおく
が
らいほう
した。

④ ひこうき
いつか □ を
そうじゆう
してみたい。

⑤ かいしや
□ の □ をかけた
しょうひん
を
かいはつ
する。

⑥ にゆうるい
ほ □ のイルカは □
はい
で □
こぎゆう
する。

国語 六―二十九 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだひ 月 にち					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □の□を□た□は□が
しろ いしだん のぼつ よくじつ あし
いたかつ た。

② □で□の□を□
びよういん ないぞう けんさ うける
で の を 。

③ □のため□で□
たいふう いたる ところ こうつうきかん
こんらん した。

④ □の□を□
ふくそう みだれ ととのえる
の を 。

⑤ このままでは□の□は
ひっし もんだい ちょうきか
だ。

国語 六―三十 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日					
がつ					
日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
送りがなにも気をつけましよう。

① げつめんとんさき の うち あげ けいかく を

する。

② かたほう まど しめる の を

③ すいぶん じょうはつ ふせぐ の を ため、ふたを とじる

④ ジャムを ほぞん する みつぺいようき を さがす

⑤ ねだん たかい かが、それに みあう ちの ある しょうひん だ。

国語 六―三十一 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
おく
送りがなにもきをつけましょう。

① りんじれつしや の じょうしやけん を かう。

② おんだん な きこう の とち で くらす。

③ あたたかい ので うわぎ は ひつよう ない。

④ あつい きせつ は しょくよく が なく なる。

⑤ ちず の しゆくしやく を しちべる。

国語 六―三十二 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の □ に 当てはまる 漢字 を 書きましよう。
おく
送りが なに も 気 を つけましよう。

①
どうろ
の
かくちようこうじ
を
しき
する。

②
せんとう
の
かんばん
を
あたらしく
する。

③
つうやく
の
しごと
に
てんしよく
しようと
はら
を

きめる
。

④
てんらんかい
が
ちゅうし
になつた
わけ
を
せつめい
する。

⑤
ラーメンの
おおもり
を
たべ
て
まんぷく
になつた。

国語 六―三十三 (書き)	第六がく年の漢字(書き)	名前	年	組	ばん
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにも気をつけましょう。

① □ ながら、 □ な □ に □ を

□。

② □ の が □。

③ かれの □ は □ に □ だ。

④ うず □ が □ だそうだ。

⑤ □ の □ をするために
□ に □。

国語 六―三十四 (かき)	第六学年の漢字 (かき)	名前	年	組	番
取り組んだ日 月 日					

次の文の□に当てはまる漢字を書きましょう。
送りがなにもきをつけましょう。

① □ が □ の □ の □ を □
かんしゅう どひょう うえ りきし ちゅうし
する。

② オリンピックの □ リレーが □
はじまる せい か
。

③ □ すいな □ を □ ない。
じゅん きもち わすれ

④ 「 □ は □ 」 という □ がある。
い じんじゅつ かくげん

⑤ □ が □ を □ とかつぐ。
のうぶ こめだわら かるがる

国語 六―三十五 (書き)	第六学年の漢字 (書き)	名前	年	組	番
とり組んだ日 月 日					

つぎ ぶん
次の文の□に当てはまる漢字を書きましよう。
おく
送りがなにも気をつけましよう。

① おおく
の
こくもつ
を
かいがい
から
ゆにゆう
する。

② ふじゅんぶつ
を
とり
のぞく
。

③ かしん
を
したがえ
て
で
かける。

④ じんたい
に
ゆうがい
な
ぶっしつ
を
じよぎよ
する。

⑤ ぬの
を
さいだん
して
ようふく
を
つくる
。

⑥ ほうりつ
で
やまぐ
。